

# Polity IV について

東 郷 賢\*

## 要 旨

本稿は、近年の経済発展の実証研究において、説明変数として使用されている政治体制を評価したデータ・ベース Polity IV の概要を紹介するとともに、その問題点を明らかにすることを目的とする。政治体制のような計量的に評価が難しい内容を、あえて評価する Polity IV のようなデータ・ベースは、その内容や問題点を把握したうえで使用することが重要であり、実証分析の結果もそのような問題点を考慮して受け入れる必要がある。

## 1. はじめに

近年における経済発展の実証研究では、各国の制度を説明変数に入れた研究が盛んである。回帰式において、被説明変数には所得水準や成長率などが入り、説明変数として初期所得や教育水準などとともに制度あるいはガバナンスを表す指標が入れられることが多い。例えば、Acemoglu and Johnson (2005) は所有権を守るような制度 (property rights institutions) が長期的な経済成長に影響を与えていると主張しており、その制度のデータとして本稿で紹介する Polity IV というデータ・ベースのなかの、最高行政官が権威を行使すると

---

\*本研究の一部は、科研費 (19530253) を受けて行われた。ここに記して感謝いたします。なお、コメントおよびご批判は [togo@cc.musashi.ac.jp](mailto:togo@cc.musashi.ac.jp) までお寄せください。

きにどの程度制度的な規制が存在するか (constraint on executive) を評価する指標 (XCONST) が使用されている。

しかしながら、このようなデータの内容や作成方法について検証した論文は少ない。データ・ベースの問題点や限界を把握せずに、そのようなデータを使用した結果が独り歩きしてしまうのは危険である。制度の指標、例えば政治体制や民主主義など計量的な評価が難しい内容をあえて評価しているデータ・ベースは特に注意を要する。

本稿は、このような理由から、近年実証研究で頻繁に使用されている Polity IV のデータ作成方法を紹介し、問題点について議論するものである。Polity IV は Ted Robert Gurr と Harry Eckstein の共同研究 *Pattern of Authority: Structural Basis for Political Inquiry* (New York, John Wiley & Sons, 1975) を基に、Gurr が各国の政体のデータ・ベース作成を Polity I として始めたものの続きである。現在は George Mason University の Monty G. Marshall の指揮の下、George Mason University と Center for Systemic Peace が共同で Polity IV project としてデータ収集と分析を行っている。

## 2. データ・ベースの概要

### 2.1. データ・ベースを構成する指標

Polity IV は各国の政治体制が民主主義か独裁制かを評価するための指標と評価そのものが中心となったデータ・ベースである。2008年5月現在で、1800年から2006年までの期間をカバーしており、その対象国は全部で189カ国（うち消滅してしまった政治体制が33カ国、例えばチェコスロバキアなど）となっている (Marshall and Jaggers 2007, pp. 40-45)。

データ・ベースは Polity IV のサイトからダウンロードできる。2006年版のデータ・ベースに含まれる主な指標は表1のとおりである<sup>1)</sup>。

---

1) Polity IV のサイトは <http://www.systemicpeace.org/polity/polity4.htm>。(2008年4月22日現在)。

表 1 : Polity IV 2006 年版の主要指標

指標	指標名	内容とコード
<b>1. Country and Case Identifier Codes</b>		
1.0 PRESENT	Present case identifier	present regime と同じなら 1 となる
1.1 CYEAR	Country year	country code + year
1.2 CCODE	Numeric country code	3 桁の数字で code されている
1.3 SCODE	Alpha country code	3 文字で code されている
1.4 YEAR	Year coded	対象年
1.5 FLAG	Tentative coding	(0) Confident (自信あり), (1) Tentaive, (2) Tenuous (根拠が薄弱)
1.6 FRAGMENT	Polity fragmentation	(0) No overt fragmentation, (分裂なし) (1) Slight fragmentation, (2) Moderate fragmentation, (3) Serious fragmentation (深刻な分裂)
<b>2. Indicators of Democracy and Autocracy</b>		
2.1 DEMOC	Institutionalized democracy	民主度を示す。0 が最低, 10 が最高。
2.2 AUTOC	Institutionalized autocracy	独裁度を示す。0 が最低, 10 が最高。
2.3 POLITY	Combined polity score	=DEMOC - AUTOC
2.4 POLITY4	Revised combined polity score	POLITY スコアを時系列で使えるように調整したもの
2.5 DURABLE	Regime durability	権力の変化から何年たっているかを示す
2.6 PERSIST	Polity persistent	Polity Component Variables の値が変化していない期間を示す
<b>3. Authority Characteristics - Polity Component Variables</b>		
<b>Executive Recruitment</b>		
3.1 XRREG	Regulation of Chief Executive Recruitment	(1) Unregulated, (2) Designational/Transitional, (3) Regulated

3.2 XRCOMP	Competitiveness of Executive Recruitment	(1) Selection (任命), (2) Dual/Transitional, (3) Election (選挙)
3.3 XROPEN	Openness of Executive Recruitment	(1) Closed, (2) Dual Executive-Designation, (3) Dual Executive-Election, (4) Open

#### The Independence of Executive Authority

3.4 XCONST	Executive Constraint (Decision Rule)	(1) Unlimited authority, (2) Intermediate category, (3) Slight to moderate limitation on executive authority, (4) Intermediate category, (5) Substantial limitation on executive authority, (6) Intermediate category, (7) Executive parity or subordinate
------------	--------------------------------------	--

#### Political Competition and Opposition

3.5 PARREG	Regulation of Participation	(1) Unregulated, (2) Multiple identity, (3) Sectarian, (4) Restricted, (5) Regulated
3.6 PARCOMP	The Competitiveness of Participation	(0) Not applicable, (1) Repressed, (2) Suppressed, (3) Factional, (4) Transitional, (5) Competitive

これら指標の中で、最も重要なものが表1の3. Authority Characteristicsに含まれる6つの Polity Component Variablesである。これは最高行政官の選択がどのように行われるか (Executive Recruitment), 最高行政官の権力がどの程度規制を受けているか (Independence of Executive Authority), 非エリートが政治的エリートに通常の方法でどの程度影響を与えることができるか (Political Competition and Opposition) の3つの観点から民主主義を分類した

指標である<sup>2)</sup>。以下、それぞれの指標の基準を詳しく見ていくことにする。

### 1) Executive Recruitment (vars. 3.1 to 3.3)

#### (1) Regulation of Chief Executive Recruitment : XRREG (variable 3.1)

この指標は、最高行政官の就任がどの程度様式化しているかを示す。

- Unregulated : 力づくで行われるケース → コードは「1」となる
- Designational/Transitional : 形式的な競争がなく、政治的エリートの間で任命されるケース → 同「2」
- Regulated : 相続で選ばれるか、競争的選挙で選ばれるかのケース → 同「3」

#### (2) Competitiveness of Executive Recruitment : XRCOMP (variable 3.2)

最高行政官の選択がどの程度競争的かを表す。XRREG が Unregulated であれば、この指標のコードはゼロとなる。

- Selection : 最高行政官が相続、任命、あるいはその両方で選ばれるケース → コードは「1」となる
- Dual/Transitional : 最高行政官が2人いて、1人は相続、もう1人は競争的選挙で選ばれるケース → 同「2」
- Election : 最高行政官が競争的選挙で選ばれるケース → 同「3」

#### (3) Openness of Executive Recruitment : XROPEN (variable 3.3)

最高行政官に選ばれることが全ての人に開かれているかを表す。XRREG が Unregulated であればこの指標のコードはゼロとなる。

- Closed : 相続で選ばれるケース → コードは「1」となる
- Dual Executive-Designation : 相続した最高行政官と任命された実質的主席大臣が共存 → 同「2」

---

2) Executive の邦訳として福味 (2004) は「執行部」、藤原 (2004) は「行政職」を使用しているが、ここでは「最高行政官」を使用する。その理由は、6つの Polity Component Variables の対象は単なる executive ではなく、Chief Executive (最高行政官) に関するものと考えられるためである。

- Dual Executive-Election : 相続した最高行政官と選挙で選ばれた実質的主席大臣が共存 → 同「3」
- Open : エリートによる任命, 競争的選挙, 任命と選挙の間での移行的措置を含む → 同「4」

## 2) The Independence of Executive Authority

### (1) Executive Constraints (Decision Rules) : XCONST (variable 3.4)

最高行政官が権威を行使するときに, どの程度制度的な規制が存在するかを示す。

- Unlimited Authority : クーデターや暗殺も含めて最高行政官の行動を制限するものはない → コードは「1」となる
- Intermediate Category : Unlimited Authority と Slight to moderate limitation on executive authority の中間 → 同「2」
- Slight to Moderate Limitation on Executive Authority : 限定的な制限がある 例: 議会が最高行政官の行動や命令を制止できる, 独立した司法制度がある, など → 同「3」
- Intermediate Category : Slight to moderate limitation on executive authority と Substantial Limitation on Executive Authority の中間 → 同「4」
- Substantial Limitation on Executive Authority : かなり制限がある 例: 議会が最高行政官の提案や行動を変更したり, 覆すことができる → 同「5」
- Intermediate Category : Substantial Limitation on Executive Authority と Executive Parity or Subordination の中間 → 同「6」
- Executive Parity or Subordination : 例: 議会が最も重要な法律を決めて実施することができる → 同「7」

### 3) Political Competition and Opposition

#### (1) Regulation of Participation : PARREG (variable 3.5)

政治参加が規制されているかどうかを示す指標。

- Unregulated : 継続する国民政党組織がない, あるいは政治活動をコントロールするシステムがない → コードは「1」となる
- Multiple Identity : 互いに競争する継続的な政党が存在する → 同「2」
- Sectarian (派閥的) : あるグループが権力を握ると, グループ・メンバーを最優先し, 他の競争的グループの行動を制限する → 同「3」
- Restricted : いくつかの政治参加が日常的に政治プロセスから排除されている → 同「4」
- Regulated : ほとんど抑圧がない → 同「5」

#### (2) Competitiveness of Participation : PARCOMP (variable 3.6)

政策やリーダーシップに関して, 現在と異なる選択を, 政治を通じて実現できるかどうかを示す指標。

- Not Applicable : Regulation of Political Participation で Unregulated とされたもの → コードは「0」となる
- Repressed : 支配政党以外の活動が禁止されている → 同「1」
- Suppressed : ある種の政治的競争が政府の外で生じているが, 政権がそれを押さえつけている → 同「2」
- Factional : 地方に根差す政党や民族をベースとした政治的派閥が通常的に政治的影響力を得るために競争している → 同「3」
- Transitional : Suppressed あるいは Factional から完全なる Competitive への移行期, あるいはその逆の移行期が対象<sup>3)</sup> → 同「4」
- Competitive : 政治的グループが国政レベルで通常的に競争している → 同「5」

以上が6つの Polity Component Variables におけるコードの内容である。

3) Marshall and Jagers (2007, p. 26) には Restricted と書いてあるが, これは Suppressed の誤りと思われる。

これら 0 から 7 までを範囲とするコードのほか、-77 と -88 という特別なコードがふられる場合がある。その内容は以下のとおりである。

Interregnum Periods (空白期間) : コード -77

中央の政治権力が完全に崩壊したときに、このコードがふられる。内戦などが具体例。このとき、Polity Component Variables の全てのコードが -77 となる。

Transition Periods (移行期間) : コード -88

新しい政体ができるまでの移行期間のときに、このコードがふられる。憲法制定のための代表者会議や、国民投票が行われている期間などがこれに相当する。このとき、全ての権威にかかわる指標には -88 のコードがふられる。

## 2.2. POLITY 指標の計算方法

Polity IV データ・ベースで各国の政体の最終的な評価は、DEMOC, AUTOC, POLITY の 3 つの指標で示される。これらの指標は上記 Polity Component Variables のコードをもとに作成される。同じ Polity IV のデータ・ベースにある指標の数字でも Polity Component Variables の数字はコードであり、厳密な意味で民主主義、独裁制の評価を行っているものではないが、DEMOC, AUTOC, POLITY の指標の数字は民主主義、独裁制の評価となっていることに注意が必要である（詳しくは後述）。

POLITY という指標は、民主主義を測った指標である DEMOC の値から、独裁制を測った指標である AUTOC の値を引いたものである。DEMOC の指標は 0 から 10 までの値を取り（10 がもっとも民主的）、AUTOC の指標も 0 から 10 までの値をとるので（10 が最も独裁的）、POLITY の値は -10 から +10 の範囲で 21 段階の評価となる。-10 が最も独裁制 (strongly autocratic) で、+10 が最も民主主義 (strongly democratic) というのである。

それでは具体的に DEMOC および AUTOC 指標の作成方法について見てみよう。この 2 つの指標は、上で紹介した 6 つの Polity Component Variables



のなかの5つの指標によって作成されている。各指標のコードには、それぞれウェイトがつけられており、それを足し上げてDEMOCおよびAUTOCの評価が決まる。例えば、当該国がXRCOMPの指標でElection（選挙）と評価されれば、コードは3が付けられるが、これに対応するのはDEMOCの評価+2となる。表2には各コードに対応するウェイトの例としてモンゴルの2006年の評価を示した。

表2：DEMOC，AUTOC指標の計算の仕方

例：Mongolia					
	コード	DEMOC Scale Weight	AUTOC Scale Weight	DEMOC	AUTOC
<b>Competitiveness of Executive Revruitment (XRCOMP)</b>					
Selection	1		+2		
Transitional	2	+1			
Election	3	+2		2	
<b>Openness of Executive Recruitment (XROPEN)</b>					
Closed	1		+1		
Dual/designation	2		+1		
Dual/election	3	+1			
Election	4	+1		1	
<b>Constraint on Chief Executive (XCONST)</b>					
Unlimited authority	1		+3		
Intermediate category	2		+2		
Slight to moderate limitations	3		+1		
Intermediate category	4	+1			
Substantial limitations	5	+2			
Intermediate category	6	+3			

Executive parity or subordination	7	+4	4
<b>Regulation of Participation (PARREG)</b>			
Unregulated	1		
Multiple Identity	2		
Sectarian	3	+1	
Restricted	4	+2	
Regulated	5		
<b>Competitiveness of Political Participation (PARCOMP)</b>			
Repressed	1	+2	
Suppressed	2	+1	
Fractional	3	+1	
Transitional	4	+2	
Competitive	5	+3	3
<b>Total Score</b>			<b>10 0</b>

出所：Marshall and Jaggers (2007), pp.14-15 およびデータ・ベース

2006年のモンゴルはDEMOCが10点で、AUTOCが0点であるため、POLITYは10(=10-0)点となる。

基本的にはコードの値が大きくなるにつれて民主度の評価(ウエイト)も高いが、XROPENについてはコード3と4が同じウエイトであり、PARREGはSectarian, RestrictedのみAUTOCとして加算されていることがわかる。つまり、PARREGのRegulatedやUnregulatedは民主主義を測る要素としては考えられていないということである。モンゴルはPARREGがRegulatedでコード5であったため、点数は入っていない。

### 3. 東アジア諸国の評価

次に Polity IV の評価が我々の実感とあっているかどうかを見てみたい。表 3 は東アジア諸国の 2006 年の評価をデータ・ベースより転記したものである。DEMOC 指標の値が一番高いのが、日本と台湾で 10 点、一番低いのはタイの 0 点である。他方、AUTOC の値が一番高いのもタイで 5 点、次がシンガポールの 4 点である。その結果、POLITY 指標は、日本と台湾が一番で 10 点、タイが -5 点で最低、次がシンガポールの -2 点となっている。タイの評価が低いのは 2006 年にクーデターがあったためである。タイの 2005 年の評価は DEMOC が 9 点、AUTOC が 0 点で、POLITY 9 点と高評価であった。

表 3：Polity IV による東アジア諸国の評価 2006 年

country	democ	autoc	polity	xrreg	xrcomp	xropen	xconst	parreg	parcomp
Japan	10	0	10	3	3	4	7	5	5
Korea South	8	0	8	3	3	4	6	2	4
Taiwan	10	0	10	3	3	4	7	5	5
Singapore	2	4	-2	2	2	4	3	4	2
Malaysia	4	1	3	2	2	4	4	3	3
Thailand	0	5	-5	2	1	4	3	3	2
Indonesia	8	0	8	3	3	4	6	2	4
Philippines	8	0	8	3	3	4	6	2	4

出所：Polity IV データ・ベース

たった 1 年間で POLITY が 9 点から -5 点へと、民主主義としての評価が大きく低下したタイであるが、たとえクーデターがあったといえ、タイの政治

制度がそれほど大きく変化したのであろうか？ タイの実質 GDP 成長率は、2005 年 4.5%、2006 年 5.0%、2007 年 4.8% と 5% 前後で安定している<sup>4)</sup>。政治体制が経済に影響を与えるかどうかは、まさに開発経済学で議論しているところであるが、POLITY 指標の大きな変化とこのような成長率の安定ぶりを比較すると、POLITY 指標が示すほどタイの政治制度が変化したのか疑問に思う。

また、シンガポールが POLITY -2 点で、マレーシアが 3 点というのも注目に値する。どちらも前最高行政官が長期政権を維持し、現在新しい首相になっているが、その政治体制にこれほど大きな差があるとは思えない<sup>5)</sup>。

表 4：日本，タイ，シンガポールの評価の詳細

	Japan		Thailand		Singapore	
	DEMOC	AUTOC	DEMOC	AUTOC	DEMOC	AUTOC
	コード	Scale Weight	Scale Weight	Scale Weight	Scale Weight	Scale Weight
<b>Competitiveness of Executive Recruitment (XRCOMP)</b>						
Selection	1	+2			2	
Transitional Election	2	+1				1
Election	3	+2	2			
<b>Openness of Executive Recruitment (XROPEN)</b>						
Closed	1	+1				
Dual/designation	2	+1				
Dual/election	3	+1				
Election	4	+1	1	0		1

4) 日本外務省 HP (<http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/thailand/kankei.html>) より (2008 年 5 月 14 日)

5) シンガポールのリー・クワンユーは 31 年、ゴー・チョクトンは 14 年、マレーシアのマハティールは 22 年の長期政権であった。

<b>Constraint on Chief Executive (XCONST)</b>						
Unlimited authority	1	+3				
Intermediate category	2	+2				
Slight to moderate limitations	3	+1		1		1
Intermediate category	4	+1				
Substantial limitations	5	+2				
Intermediate category	6	+3				
Executive parity or subordination	7	+4	4			
<b>Regulation of Participation (PARREG)</b>						
Unregulated	1					
Multiple Identity	2					
Sectarian	3	+1		1		
Restricted	4	+2				2
Regulated	5					
<b>Competitiveness of Political Participation (PARCOMP)</b>						
Repressed	1	+2				
Suppressed	2	+1		1		1
Fractional	3	+1				
Transitional	4	+2				
Competitive	5	+3	3			
<b>Total Score</b>			10	0	0	5
				2		4

出所：Polity IV データ・ベースと筆者計算

このような評価がなされた要因を分析するため、表2とおなじ方法で、日本、タイ、シンガポールのDEMOCとAUTOC指標の作成方法を検証してみた(表4参照)。日本とタイ、シンガポールの評価が大きく異なった原因は、

XCONST 指標で日本が Executive Party or Subordinate とされコード 7 となり DEMOC に 4 点入っているのに対し、タイ、シンガポール両国は Slight to moderate limitations となりコード 3 が付けられ、その結果 AUTOC に 1 点（すなわち POLITY で言えば -1 点）となっている点が多い（マレーシアの XCONST はコード 4 で +1 点である）。これだけで POLITY の 5 点の差が生じる。更に、PARCOMP においても日本は Competitive という評価で、DEMOC において 3 点の評価を受けているのに対し、両国は Suppressed となり、AUTOC で 1 点の評価を受けている（マレーシアは Fractional という評価で DEMOC 1 点）。これも POLITY 指標でいえば 4 点の差となる。タイの XROPEN が 4 とコードされていながら 0 点なのは（本来 1 点がつくはず）、XRCOMP のコードが 2 か 3 のときにのみ、XROPEN のコード 4 に対して 1 点が付与されるという条件のためである（Marshall and Jaggers 2007, p.14）。

#### 4. 問題点

Polity IV データ・ベースは、数ある制度指標の中では Rule-base と評され、客観的な指標であると認識されている。しかしながら、必ずしもそうは言えない。以下、問題点を指摘していくこととする。

##### (1) スケーリングおよびウェイトの不適切さ

例えば、最高行政官が権利を行使する際にどの程度制度的な規制が存在するかを評価する指標である XCONST は 7 段階の評価になっているが、そのうち 3 つは Intermediate Category である。つまり、4 段階でも評価が可能ということである。もし、4 段階であれば、日本とタイ、シンガポールの差はこれほど大きくならなかったといえる。評価の段階をいくつにするかは全くの恣意的なもので、Polity Component の各指標によって評価の段階は 3 段階から 7 段階まで異なっている。

次に問題となるのが、コードにつけられたウェイトの恣意性である。例えば、XCONST ではコード 3 の Slight to moderate limitation は AUTOC 指標

で1点のウェイトを持つものに対し、コード4のIntermediate categoryはDEMOC指標で1点のウェイトとなる。これはPOLITY指標において2点の差となる。XCONSTの他のコード番号では、コード番号1つの違いは、ウェイトの差1となるから、コード3と4の間でだけ、コードの1の差がウェイトでは2点の差をもたらす。まさに、マレーシアとシンガポールのPOLITY指標の点数の差は、この恣意的なウェイトの差によって拡大したのである。

このスケールリング、ウェイトの問題点は以下のグラフ1からも明らかになる。グラフ1はDEMOCおよびAUTOCの点数を計算する基となるPolity Componentの5つの指標の2001年から2006年までの分布を示したものである。明らかにXROPENはコード4が殆どであることがわかる<sup>6)</sup>。XROPENは最高行政官になる道が全ての人に開かれているかどうか、という指標であったが、殆どの国で「開かれている」と評価されていることがわかる。ほとんどの国が1つのカテゴリーに分類される分類方法は改善の必要性があるだろう。

次に政治参加が規制されているかどうかを示す指標PARREGであるが、この指標はコード2とコード5が最も頻度が多い。しかし、DEMOCとAUTOCでは、PARREGのコード2とコード5にはウェイトが割り振られていないのである。つまり、ウェイトの恣意性によって、多くの国が政治参加が規制されているかどうかという観点において民主主義か否かの評価対象になっていないということである。

## (2) 制度を評価しているのか

Glaeser et al. (2004)は、現在の制度指標が概念的欠陥をもっていることを指摘しているが、そのなかでPolity IVについても批判している。その批判点は、例えばXCONSTは最高行政官が権利を行使する際にどの程度「制度的」な規制が存在するかを示しているとされているが、実際には選挙の結果を示しているにすぎないというものである。

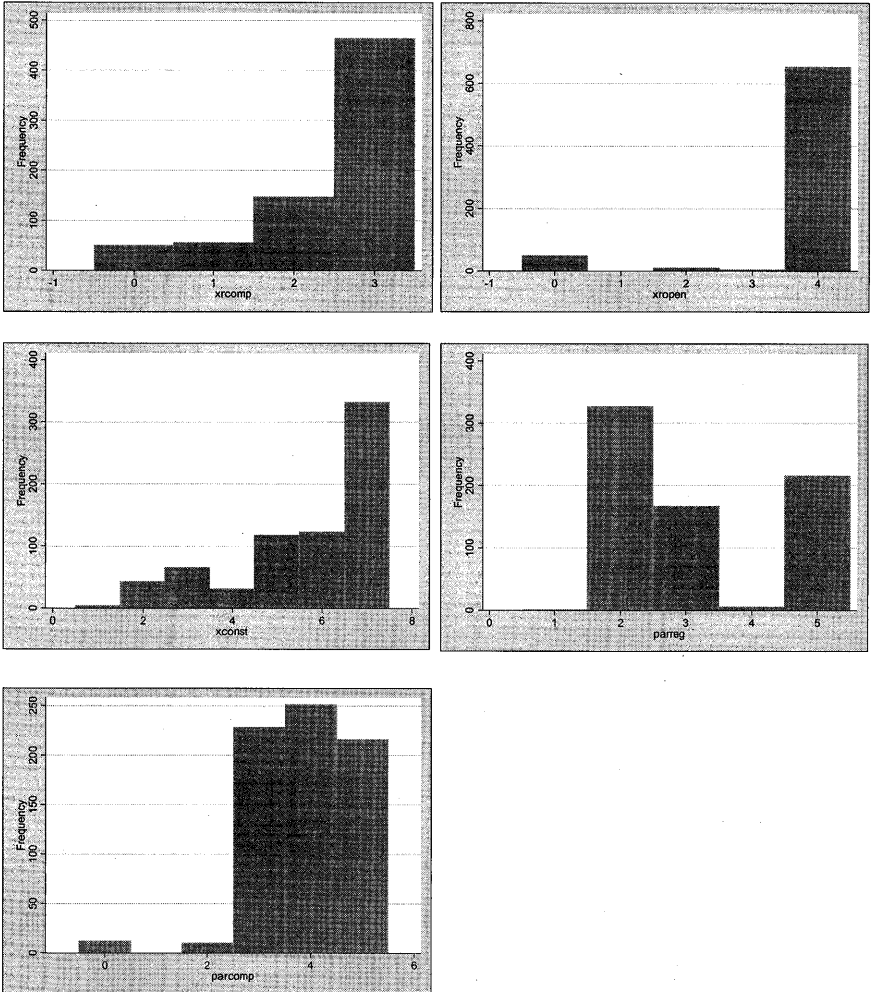
例えば、ハイチのXCONSTは1960-1989年の独裁者の間は評価1（最低）

---

6) 1990年代の分布も作成したが、その特徴は変わらなかった。

であったが、アリストテッドが選挙で選ばれると評価は6に急上昇。しかし、1991-1993年に彼が国外に脱出すると、また評価1に戻った。そして、選挙自体は広く批判されたものであったにもかかわらず、1994-1998年に彼と彼の政

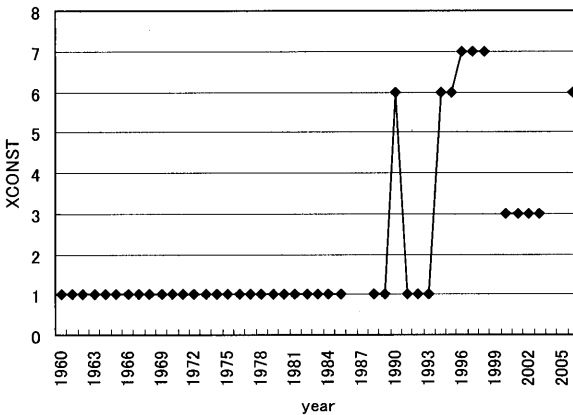
グラフ1：Polity Component 5 指標の分布（2001年から2006年まで）



出所：Polity データ・ベースより筆者作成



グラフ 2：XCONST, ハイチのケース



(出所) Polity IV

(注) データの無い年は、-88 (移行期間) の評価になっている。

党が選挙を経て権力に復帰したら評価は6, 7へと再び上昇した。これは明らかに規制という制度を測ったものではなく、選挙の結果を反映したものであると主張している (Glaeser et al. 2004, p. 277)。実際にハイチの XCONST 指標のコードをグラフにしたのがグラフ 2である。

### (3) 制度指標の不安定性

Glaeser et al. (2004) は「制度」とは本来安定的なものであるはずなのに、Polity IV の指標が大きな変動を遂げている問題点も指摘している。例えば、1960年から2000年までの間の各国の XCONST, DEMOC, AUTOC の値の標準偏差の平均をもとめているが、この値はそれぞれ18.5%, 17.5%, 19.3%となっている。同じようにして計算した同時期の各国の就学年数の標準偏差の平均値の値が10.3%であることから、この Polity IV 指標の適切さに疑問を投げかけている (Glaeser et al. 2004, Table 1)。

#### 4. まとめ

以上のとおり、Polity IV データ・ベースは本来数値で評価することが難しい政治体制を数値で評価しようという意欲的なデータ・ベースである。しかも、出来るだけ客観的な指標になるように政治的制度やルールを重視して評価を行っているところが大きな特徴である。

しかしながら、上でも指摘したとおり各指標のスケールリングやウェイト付には恣意性が存在し、対象国の政治体制がどのコードに入るかとの評価には主観的要素が入る可能性がある。また、Glaeser らが指摘するように、適切に制度を評価しているのかという疑問も残る。

民主主義は枠組みだけを整備しても、国民が実際にその枠組みを使わない（或いは使えない）場合には、実現できないことは明らかである。投票制度が整っていても、投票場所が遠くてなかなか投票に行けなかったり、投票に行く金銭的・時間的余裕がなかったりすれば、それは民主主義とは言えないであろう。制度を評価しただけで、民主主義を評価できるとは考えられない。

近年の経済発展の実証研究では、制度指標が重要視されているが、指標そのものの検証を行わず、得られた結果を鵜呑みにするのは大変危険である。本稿が制度指標の検証に関し、何らかの貢献ができたとすれば幸いである。

#### 〈参考文献〉

- Acemoglu, Daron and Simon Johnson (2005), "Unbundling Institutions," *Journal of Political Economy*, 113 (5): 949-995.
- Glaeser, Edward L., Rafael La Porta, Florencio Lopez-De-Silanes, and Andrei Shliefer (2004), "Do Institution Cause Growth?" *Journal of Economic Growth*, 9: 271-303.
- Marshall, Monty G. and Keith Jagers (2007), "Polity IV Project Political Regime Characteristics and Transitions, 1800-2004, Dataset Users'

Manual,” Polity IV Project Center for Global Policy School of Public Policy George Mason University and Center for Systemic Peace.

福味敦 (2004), 「民主主義・制度・経済成長 研究の現状と課題」, 神戸大学  
経済経営研究所 Discussion Paper Series, J63.

藤原郁郎 (2004), 「民主化指標の考察と検証－識字率との相関分析を通じて」,  
『国際関係論集』, 第4巻, 2004年4月.